

沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び 博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について —「沖縄県産鳥類目録」補遺—

嵩原建二⁽¹⁾・池長裕史⁽²⁾・金城道男⁽³⁾
渡久地 豊⁽⁴⁾・金城輝雄⁽⁵⁾・庄山守⁽⁶⁾

Interesting Birds records that were observed recently in the field on Okinawa
Prefecture, Given Medical Care by Okinawa Zoo and Specimen owned by Okinawa
Prefectural Museum

(K.Takehara, H.Ikenaga, M.Kinjyo, Y.Toguchi, T.Kinjyo and M.Shoyama)

Abstract: After the checklist of birds of Okinawa (McWhirter *et al.*, 1996) have been issued, several new bird species and new information of bird were recorded in Okinawa prefecture. Five species mentioned in this paper are as following; Large Hawk Cuckoo, Black-and-White Cuckoo, Whinchat, Philippine Glossy Starling and Ashy Drongo were newly recorded in Japan. Four species; Black Bittern, Japanese Crane, Band-bellied Crake and Meadow Pipit were described as new record in Okinawa prefecture. Some new distribution and interesting records are also mentioned. Addenda of the checklist of birds of Okinawa were listed from various source of information.

はじめに

沖縄県内で記録された鳥類については、1996年にMcWhirterら(1996)によって暫定的な「沖縄県産鳥類目録」が作成され、418種の鳥類記録が報告されている。しかしながら、同報告以降においても、県内では野外観察による新たな記録が増加している。また、傷病鳥として保護された個体や博物館収蔵標本の中にもこれまで国内や県内で報告されていない鳥類が見い出されている。

本報告ではこれら国内や県内における新記録種や新分布種等の興味深い観察記録をまとめ、上記「沖縄県産鳥類目録」の補遺として追加加筆したものである。

なお、本報告における和名の扱いは、山階(1986)に従った。

⁽¹⁾ 沖縄県立博物館・⁽²⁾茨城県つくば市在住・⁽³⁾沖縄フィールドワーク

⁽⁴⁾ あかひげ工房・⁽⁵⁾(財)沖縄子どもの国・⁽⁶⁾西表中学校

1. 沖縄県内で確認された稀な鳥類の記録

(1) 日本初記録種

1) オオジュウイチ *Cuculus sparverioides sparverioides* [Large Hawk Cuckoo]

カッコウ目カッコウ科 Cuculidae

1989年10月2日に石垣島に所在する石垣市立川平小学校（図1）で窓ガラスに衝突死した個体で、著者の一人である庄山によって沖縄県文化課へ送付された。その後沖縄県教育庁文化課により剥製標本が製作され、1990年4月に沖縄県立博物館へ寄託された標本である（写真1）。

今回採集された標本は、翼長が240mmとジュウイチ *C. fugax* やホトトギス *C. canorus* などに比べ大型で、くちばしはやや下方にカーブし長く、頭部は黒灰褐色で背中は茶褐色である。喉から前胸部に荒い茶褐色の縦すじがあり、下腹部に横斑が見られる。尾羽は灰褐色で、上面に4条、下面に6条の横帶が見られ、尾端部の横帶は太い。また、下尾筒は無斑で灰色である。これらのことから、中国や台湾などに生息するオオジュウイチ *Cuculus sparverioides sparverioides* と判断された。

カッコウ属 (Genus *Cuculus*) の中で、東南アジア地域に生息するジュウイチ類 (Hawk-cuckoo) は、翼の大きさ等により4種に分けられ、その中の1種であるオオジュウイチ *C. s. sparverioides* は、ヒマラヤから中国南部、セレベス島、フィリピン、海南島、台湾などに広く分布している (King and Dickson 1975 · Howard and Moore 1991)。また、中国や台湾においては2000m以下の森林地域に夏鳥として普通に飛来する (顔ら 1996. 王ら 1991)。

本種の日本における確認例はこれまでに皆無と思われ、本報告が国内における初めての記録になるものである。なお、表1に各部位の計測値を示し種同定の参考とした。

表1. オオジュウイチ *C. s. sparverioides* の計測値 (単位: mm)

Measurements (備考: 標本計測)

跗 跖 長	露 出 嘴 峰 長	自 然 翼 長	尾 長
Length of tarsus	Length of culmen	Length of Wing	Length of tail
24.8	24.6	240	210

2) クロシロカンムリカッコウ *Cucurus jacobinus* [Black-and-White Cuckoo]

カッコウ目カッコウ科 Cuculidae

1997年5月31日及び6月1日に西表島浦内川西方の湿地（通称クモッタ、図1）で観察され、同年6月1日に西表島在住の蒲田愛美氏によってビデオカメラで撮影されている

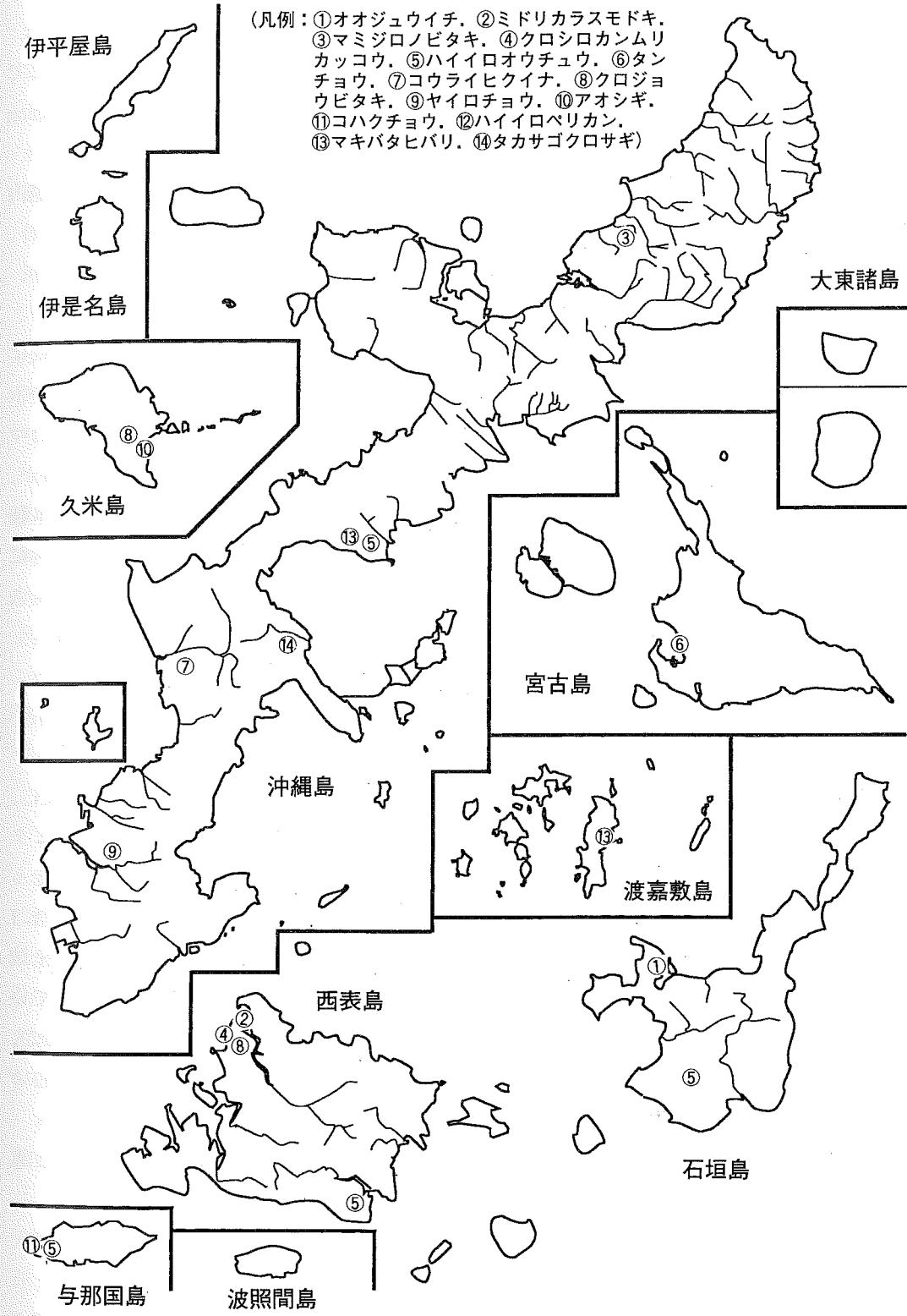


図1. 沖縄県内における興味深い鳥類の確認地

(写真2)。極めて特徴のある色模様であるため本種と容易に判別できた。

本種はインドからイラン、アフリカなどにかけて分布するカッコウ類で、東南アジアではビルマ中央部から北部にかけて雨期（5月から11月）に見られる（King and Dickson 1975）。また、中国南部では夏鳥として飛来するとされる（顔ら 1996）。

沖縄県内では夏季に迷鳥として飛来した個体が観察されたものと思われ、これまで国内での報告が見られないので、今回の迷行記録が国内初記録になるものと思われる。

3) ミドリカラスモドキ *Aplonis panayensis* [Philippine Glossy Starling]

スズメ目ムクドリ科 Sturnidae

1998年3月27日に、西表島浦内橋付近（図1）で1個体が有山智樹、中山文仁両氏により観察、写真撮影された。14:05にバス停前の電線に止まり、その後、近くのデイゴの木に止まった。14:15頃に付近の山林に飛去し、14:37に山林から飛び立ち、浦内川河口のマングローブ林方向へ飛び去ったという（大西敏一氏私信 1999年）。写真撮影されているが、今回は図示できなかった。光沢のある濃緑色の羽毛と赤い目、及びその嘴の特徴から本種の♂成鳥であると容易に判断できた。本種はマレーシア、インドネシアからフィリピンにかけて広く分布しており、テリムクドリ属 *Aplonis* では最も北まで生息している（Feare & Craig, 1999）。

国内ではこれまで、本種の確認報告はないので、この記録が国内初記録と思われる。

4) マミジロノビタキ *Saxicola rubetra* [Whinchat]

スズメ目ツグミ科 Turdidae

1998年9月23日に、大宜味村喜如嘉（図1）で1個体が有山智樹、小林竜也、中山文仁、他1名の各氏らによって観察、写真撮影された。14:30頃、造成地上で発見され、ノビタキ *Saxicola torquata* の行動パターンとは異なり、杭などには止まらず地面を素早く走っていたと言う。同日夕方まで確認されたが、翌日は見つからなかった（大西敏一氏私信 1999年）。写真撮影されているが、今回は図示できなかった。本種はヨーロッパのはば全域からロシアにかけて広く分布している（Knystautas, 1993）が、中国からは記録されていない。今回の個体は第1回冬羽と思われ、近縁種であるノビタキの冬羽と類似しているが、眉斑が際立っていること、腰から上尾筒にかけて黒い軸斑が明瞭なこと、尾の基部が白いことなど（Beaman & Madge, 1998）から本種と断定した。

これまで、本種の国内での記録は見られないので、本報告は国内初記録になるものと思われる。

5) ハイイロオウチュウ *Dicrurus leucophaeus* [Ashy Drongo]

スズメ目オウチュウ科 Dicruridae

1996年9月26日に著者の一人である金城道男によって与那国島（図1）で初めて目撃さ

れ、その後1997年10月には著者の一人である嵩原によって与那国島久部良で再認されている（写真3）。また、東京在住の二階堂全滋氏（1999.私信）によって1997年2月に西表島大原、沖縄野鳥研究会の金田昌士氏らによって1998年3月に石垣島パンナ岳入口、1998年9月には沖縄野鳥研究会の比嘉邦昭氏らによって沖縄島金武町並里でそれぞれ1個体が確認されている。さらに、1998年10月には嵩原によって沖縄島西方に位置する粟国島で2個体が確認されている。したがって、沖縄県内では少なくとも与那国島で2例、西表島、石垣島、沖縄島、粟国島の各島でそれぞれ1例の合計6例が確認されている。

ハイイロオウチュウ *Dicrurus leucophaeus* は、世界で14亜種が生息していることが知られている（Howrd and Moor, 1994・Mayr and Greenway, 1962など）。このため国内で数例の確認記録があるものの亜種が確定せず、日本鳥学会目録編集委員会（1997）においても、日本産鳥類リストへの掲載が見送られ、その採用を検討中としている。

最近、森岡（1999）によって本種の亜種の同定が試みられ、1997年10月に与那国島で撮影されたハイイロオウチュウの亜種名を *Dicrurus leucophaeus leucogenis* としている。沖縄県内で目撃されている個体は、石垣島での亜成鳥と思われる個体を除き、いずれも目の回りに白色部を有する個体であったことから、本報告では森岡（1999）にしたがい、沖縄県内で目撃されたハイイロオウチュウの亜種を *D. l. leucogenis* とした。これまで国内においては、本亜種の目撃情報はあるものの公式的な報告は見られないで、1996年9月の与那国島における観察記録が国内初記録と思われる。さらに本報告はそれぞれの島における新分布記録となるものである。

（2）沖縄県内初記録種

- 1) タカサゴクロサギ *Dupetor flavigollis flaviollis* [Black Bittern]
コウノトリ目サギ科 Ardeidae

1996年3月1日に沖縄環境保全研究所の新垣宏氏（私信）によって、沖縄島中部の具志川市天願川（図1）で観察・撮影された（写真4）。県内では他に1997年6月19日に伊良部島で1個体が保護され（宮古野鳥の会 2000）、さらに1998年9月14日には土方秀行氏によって沖縄島北部大宜味村喜如嘉で1個体が観察されていると言う（福田篤徳氏私信）。

本種は本来ネパール、スリランカ、中国の中部から南部、東南アジア、フィリピン、台湾などに分布し、国内では迷鳥として1981年5月4日に新潟県粟島で初めて記録されている（小林 1983）。本種はこれまで県内における確認例がなく、具志川市における観察例が県内初記録になるものと思われる。なお、本種は鹿児島県十島村宝島においても、1993年5月31日に写真撮影されている（五百沢ら 2000）。

2) タンチョウ *Grus japonensis* [Japanese Crane. Red-crowned Crane]

ツル目ツル科 Gruidae

1997年11月16日に宮古島与那覇湾で(図1)、宮古野鳥の会の新垣邦雄氏及び砂川栄喜氏によって1個体が観察され、写真撮影されている(写真5)。

本種は国内では北海道地方で繁殖分布しているが、国外ではシベリア東北部や中国東北部で繁殖したものが、朝鮮半島や中国中部などで越冬する(小林 1983)。このことから、本個体は中国大陸からの迷行もしくは国内での漂鳥としての飛来と思われる。

本種の県内における飛来記録はこれまでに皆無と思われ、宮古野鳥の会20周年記念誌(宮古野鳥の会, 2000)に掲載されているように、今回の記録が県内初記録となり、宮古島においても新分布記録となる。

3) コウライヒクイナ *Porzana paykullii* [Band-bellied Crake]

ツル目クイナ科 Rallidae

本個体は1998年10月2日に沖縄島中部の嘉手納町水釜(図1)の民家車庫内で発見され、1998年10月3日に傷病鳥として「沖縄子どもの国(動物園)」に届けられた。

本個体は保護時においてはヒクイナ *Porzana fusca* の若鳥と考えられ、下腹部の横紋や雨覆部の淡い白斑の出現は認められなかった。保護飼育後、約4ヶ月後頃から下腹部の横紋が出現し、約9ヶ月から10ヶ月後に雨覆部にうすい白斑が出現してきた(写真6, 7)。これらの特徴から、1993年5月25日に北海道渡島大島で標識調査中に捕獲され(山階鳥類研究所 1993・Birder 編集部 1999)、国内で最初の確認とされるコウライヒクイナ *Porzana paykullii* の可能性が考えられた。

本種 *P. paykullii* は、中国北東部から朝鮮にかけて普通に夏鳥として渡来、繁殖するとされる(顔ら, 1996)。また、本種は大雨覆と小雨覆の先端に淡い白斑が出現し、初列風切に白色部を有するとされる。さらに、下腹部と下尾筒に白と黒の横しまがある。

表2. コウライヒクイナ *Porzana paykullii* 各部計測値(単位:mm)

Measurements (計測者: 山階鳥類研究所尾崎清明氏)

跗 跖 長 Length of tarsus	露 出 嘴 峰 長 Length of culmen	自 然 翼 長 Length of Wing	尾 長 Length of tail
39.3	21.0	117	45+
全 長 Total Length	体 重 Body Weight		
220+	83g		

(備考:+は一部欠損により参考値)

今回保護された個体は、*P. paykullii* 同様雨覆部に淡い白斑が出現し、下腹部に横縞が認められる。しかしながら、幼鳥であるためか初列風切には白斑部分認められなかった。また、腹部の横縞はヒクイナ *Porzana fusca* と異なり、尾や下尾筒に近い部分ではなく、脚部のやや前方下腹部より始まっている（写真8）。さらに、本種に酷似するナンヨウオオクイナ *Rallina fasciata* について、Ripley (1977) 及びTaylor and von Perlo (1998) に示された図版等により比較すると、特に下腹部の横縞模様の始まり部分がナンヨウオオクイナの場合、脚部より前方の下胸部部分から始まっており、その縞模様も太く荒いように見える。また、雨覆部分の白斑も大きくより明瞭である。これらのことから総合して今回保護された個体は、コウライヒクイナ *Porzana paykullii* と判断された。したがって、本報告が前述した北海道での記録に次ぐ国内2例目と思われ、また本種の確認記録は、県内における初めての記録である。なお、表2に各部位の計測値を示して種同定の参考とした。

4) マキバタヒバリ *Anthus pratensis* [Meadow Pipit]

スズメ目セキレイ科 *Motacillidae*

1998年12月に沖縄野鳥研究会の仲宗根励氏によって金武町並里（図1）で1個体が観察された。その後、1999年1月22日には沖縄野鳥研究会の金田昌士氏らによって、慶良間諸島の渡嘉敷島（図1）で1個体観察されている（写真9）。

本種は中国西部からヨーロッパまで広い範囲に生息分布を持つセキレイ科の鳥である。国内では1997年1月31日に福岡県で国内初めての確認例がある（岡部 1998）。今回の記録は国内2例目と思われ、沖縄県内では初めての記録となる。

(3) 沖縄県内新分布記録種

1) ハイイロペリカン *Pelecanus crispus* [Dalmatian Pelican]

ペリカン目ペリカン科 *Pelecanidae*

本種はこの数年間に県内で複数の観察記録が得られている。那覇市在住の渡久地政武氏によって1997年1月に沖縄島浦添市牧港で1個体、著者の一人である金城道男によって1998年1月に沖縄島中部の与那城町照間で1個体、同年2月に鳥景会の伊礼新治氏によって沖縄島中部の読谷村長浜ダムで1個体が観察された。その後同年3月9日には石垣島のアンバルで川勝敏雄氏により1個体が発見され、3月14日まで観察された。この個体は西村直人氏、古屋篤史氏及び佐藤進氏によって写真、ビデオ撮影されている（川勝・西村・古屋・佐藤各氏私信）。その後、1999年12月7日に与那国中学校の多和田眞修氏によって与那国島の久部良ミト（図1）で1個体が目撃、撮影されており（写真10）、同一個体と思われるものが2000年1月1日に石垣島磯部川河口で観察され、同3日には石垣ダムで写真撮影された（小山慎司氏私信 2000年）。同個体は同月11日にもアンバルで見つかって

いるという（琉球新報 2000年1月13日付記事）。一方、宮古群島の伊良部島でも2000年1月8日に1個体の飛来が宮古野鳥の会によって確認されたが、同個体はその後同月11日に伊良部島佐和田の浜で確認された。しかし、同月12日に動けなくなったところを宮古野鳥の会会員によって傷病鳥として保護され、（財）沖縄こどもの国に輸送されたが、到着時にはすでに死亡していた。こどもの国では直ちに各部位の計測を行い、1月14日に死因解明のため解剖に付された。

表3に各部位の計測値と主要な解剖所見を示した。この所見の結果から、採食は死亡前2日から3日は行われておらず、消化管にも異物は検出されないことから、直接の死因は心嚢内に液体が貯留（心内膜炎）による心不全と考えられた。また、心内膜炎は滲出液の細菌検査でも細菌や真菌の検出されなかつことにより非細菌性心内膜炎と診断された。

表3.ハイイロペリカン *Pelecanus crispus* [Dalmatian Pelican] の計測値と解剖所見

Measurements (mm)

<u>跗蹠長</u> Length of tarsus	<u>露出嘴峰長</u> Length of culmen	<u>自然翼長</u> Length of Wing	<u>尾長</u> Length of tail
115	425	740	250
<u>全長</u> Total Length	<u>翼開長</u> Wingspread	<u>体重</u> Body Weight	
1810	2520	7.56kg	

〈主要解剖所見〉

性別：雄

心嚢内に透明黄褐色の液体充満（心内膜炎）し、貯留液にはフィブリン析出（炎症反応）を呈する。肝臓は鬱血し、やや硬度あり。左後し第3指先端関節部よ離断し化膿及び壞死（やや慢性所見）。左後し第2、3指間の水かき破れ化膿及び壞死。胃内容物空虚、腸管内容もごく少量で腸管鬱血。

なお、同個体の標本は平良市総合博物館に剥製として保存される予定とのことである（沖縄タイムス,2000年1月13日付記事）。

本種は県内では迷鳥として飛来し、これまで石垣島での古い記録が見られる（八重山野鳥の会 1983）。今回の記録は近年の記録として貴重であり、沖縄島と与那国島での記録は本種の新たな分布記録となる。

また、本種は1998年3月の石垣島での記録以来、1999年4月まで日本列島の各地ではほぼ連続的に観察されたが、それらが全て同一個体であったか否かはわかつていない。

なお、参考記録として同時期の国内における記録を付記する（福田篤徳氏私信）。

鹿児島県別府川河口 1998年3月中旬。佐賀県大授揚 1998年4月5日。山口県阿知須干拓 1998年4月11日。山口県阿知須町土路石川河口 1998年4月12日。島根県宍道湖 1998年4月19～26日。富山県常願寺川大日橋 1998年10月17日。石川県河北潟 1998年10月25日。石川県七尾西湾 1998年10月26～11月12日。新潟県鳥屋野潟 1998年11月20日。茨城県涸沼 1998年11月26日～12月6日。静岡県富士川河口 1998年12月5日～30日。茨城県涸沼 1999年1月1日～4月6日。この間、千葉県小櫃川河口で1999年2月4日の記録有り。

2) コハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskii* [Tundra Swan]

カモ目カモ科 Anatidae

与那国島の久部良ミト（図1）で、1999年12月7日に与那国中学校の多和田眞修氏によって1個体が観察されている（写真11）。本個体は若鳥で野外識別の面でオオハクチョウと酷似しているため、当初はオオハクチョウ *C. cygnus* とされていたが、体色が全体に白色がかり、首もやや短めであることから本種と判断された。

本種は迷鳥として県内各地に飛来してくるものと考えられ、県内における観察記録については、1979年12月に名護市（友利 1977）と石垣島（八重山野鳥の会 1983）での記録が見られる。また、沖縄野鳥研究会（1986）は、確認日付が不明ながら、伊是名島、北大東島、小浜島の3島での記録を示している。最近では1993年12月に沖縄島の浦添市で1個体と沖縄市で2個体が観察されている（嵩原 1994）。したがって、与那国島における本種の確認記録は報告されていないので、同島初記録となる。

3) アオシギ *Gallinago solitaria japonica* [Solitary Snipe]

チドリ目シギ科 Scolopacidae

1999年10月31日に（株）久米製糖の嘉手苅初子氏によって、久米島仲里村立仲里中学校裏手にある水路（図1）で、採餌中の1個体が写真撮影された（写真12）。

本種の県内における生息状況は、稀な旅鳥や冬鳥として飛来してくるものと思われるが、これまでの観察記録は、1993年10月10日に粟国島で捕獲標識され（山階鳥類研究所 1993）、また、1996年1月5日に沖縄島北部の大宜味村喜如嘉において、筆者のひとりである金城道男及び渡久地によって観察と写真撮影がされている。したがって、今回の久米島における観察記録が同島での初記録になるものと思われる。

4) ヤイロチョウ *Pitta brachyura* [Fairy Pitta]

スズメ目ヤイロチョウ科 Pittidae

本種は1997年9月5日に沖縄島南部の那覇市古波蔵にある那覇市漫湖公園の県道路上（図1）で弊死体として拾得され、沖縄県文化課により剥製標本が作製された。その後

同標本は1999年4月に沖縄県立博物館に寄託された完全剥製標本である（写真13）。

本種は国内では局所的に渡来する夏鳥として、九州や四国、本州の山地森林地域で繁殖している。しかしながら、県内では迷鳥もしくは稀な旅鳥として飛来（通過）するものと考えられ、1979年7月15日に名護市屋我地で玉城克彦氏による1例の観察例がある（嵩原1990）が証拠となる写真はなかった。おそらく、今回の記録が県内における2例目の記録であり、物証となる初めてのものである。なお、表4に各部位の計測値を示して種同定の参考とした。

表4. ヤイロチョウ *Pitta nympha* の計測値（単位：mm）

Measurements

跗 跖 長	露 出 嘴 峰 長	自 然 翼 長	尾 長
Length of tarsus	Length of culmen	Length of Wing	Length of tail
38.3	25.5	126	42

5) ケロジョウビタキ *Phoenicurus ochruros rufiventris* [Black Redstart]

スズメ目ツグミ科 Turdidae

1999年3月24日の朝9時20分頃、久米島仲里村比嘉にある仲里村役場前中庭で（図1）、植栽のわきの芝地や草地に降り立ち、餌をついばんでいる雄1個体が確認された（写真14）。

本種は大きさ約14cmの小形ツグミ類で、中国西部・チベット・ネパール・シッキム（以上が今回確認された亜種の生息分布）に生息し、その仲間はバイカル西部からアルタイ・ヒマラヤ西部・パキスタン・アフガニスタン・イラン・イラク・ヨーロッパ中部以西一帯・アフリカ北部などに広く繁殖分布する（黒田 1980）。また、朝鮮半島や台湾などにおいて迷鳥として飛来することがある（王ら 1991）。

本種の日本における初記録は、1984年4月15日に石川県舳倉島での記録とされ、その後1985年4月29日から30日にかけて山口県見島、1986年29日から30日に北海道知床半島、1987年3月と1988年1月から3月に埼玉県浦和市で確認記録が見られる（Brazil 1991）。その後、1995年1月8日に千葉県取手市や1996年4月21日には石川県輪島市舳倉島で写真撮影されているなど国内の観察記録は多い（亀谷辰郎氏私信 1999）。

県内では1996年4月6日に西表島で雄1個体が初確認されている（庄山 1997）。今回の確認は県内2例目となり、沖縄諸島では初めての記録と思われる。

2. 沖縄県産鳥類目録補遺

本編はMcWhirterら (1996) の「沖縄県産鳥類目録」(以下「目録」と略記) 以降において新たに県内確認された鳥類や見落とし等により目録から漏れている鳥類の中で、前述した詳細な観察記録等でまとめた12種の鳥種以外の種についてまとめたものである。その記入の順序は、「目録」における番号・科名・種名・個体数・学名・英名・観察期日・観察場所・観察者・発表(文献)その他(備考)の順とした。その内訳は県内新記録種と新分布記録、希種の参考記録と分けてまとめ、上記「目録」の補遺とした。

なお、一部の学名の扱いは日本産鳥学会目録編集委員会 (1997) に準拠した。

1) 県内新記録種、()は個体数

A-063の後

科名：カモ科 ANATIDAE

種名：カリガネ (1)

学名：*Anser erythropus*

英名：Lesser White-fronted Goose

観察日：1998年4月25日

観察地：西表島

観察者：蓑口靖

発表その他：「日本の鳥1998」

文一総合出版 (1999) p95.

B-123の後

科名：ハヤブサ科 FALCONIDAE

種名：アカアシチョウゲンボウ (1)

学名：*Falco amrensis*

英名：Eastern Red-footed Falcon

観察日：1994年10月22日

観察地：石垣島平田原

観察者：矢田新平

発表その他：「*Birder*」96号. 文一総合出版
(1995) p17.

C-182の後

科名：シギ科 SCOLOPACIDAE

種名：コキアシシギ (1)

学名：*Tringa flavipes*

英名：Lesser Yellowlegs

観察日：1999年10月2日

観察地：沖縄島那霸市漫湖

観察者：大西敏一

発表その他：大西敏一私信. 写真無し

D-323の後

科名：ツグミ科 TURDIDAE

種名：ハシグロヒタキ (雄1)

学名：*Oenanthe oenanthe*

英名：Wheatear

観察日：1996年4月17日

観察地：西表島浦内 (通称クモッタ)

観察者：庄山守

発表その他：「*Birder*」125号. 文一総合
出版. (1997) p44.

E-361の後	F-393の後
科名：ヒタキ科 TURDIDAE	科名：アトリ科 FRINGILLIDAE
種名：コチャバラオオルリ（1雄）	種名：アカマシコ（2雌）
学名： <i>Niltava sundara</i>	学名： <i>Carpodacus erythrinus</i>
英名：Rufous-billed Niltava	英名：Scarlet Rosefinch
観察日：1997年10月23日（傷病鳥保護）	観察日：1999年10月12日
観察地：沖縄島北部国頭村伊地林道	観察地：粟国島
観察者：久高将和他	観察者：森河隆史・宮城国太郎
発表その他：写真あり（久高将和私信）	発表その他：松村伸夫私信、写真有り
<hr/>	
2) 新分布記録種、（ ）は個体数	B-050
A-035	科名：サギ科 ARDEIDAE
科名：グンカンドリ科 FREGATIDAE	種名：カラシラサギ（1）
種名：オオグンカンドリ（3）	学名： <i>Egretta eulophotes</i>
学名： <i>Fregata minor</i>	英名：Chinese Egret
英名：Greater Frigatebird	観察日：1996年9月22日
観察日：1999年7月19日	観察地：南大東島
観察地：石垣島新川川河口	観察者：鹿嶋雄二
観察者：松村伸夫	発表その他：「Birder」125号、文一総合出版（1997）、p48.
発表その他：松村伸夫私信、写真有り	
<hr/>	
個体数：1（前記と同一個体と思われる）	C-065
観察日：1999年12月4日	科名：カモ科 ANATIDAE
観察地：石垣島新川川河口	種名：サカツラガン（1）
観察者：嵩原建二	学名： <i>Anser cygnoides</i>
発表その他：写真あり。同時期西表島仲間川 でも観察記録有り	英名：Swan Goose
個体数：1	観察日：1997年12月7日
観察日：1999年9月22日（傷病鳥保護）	観察者：新垣邦雄・仲間章郎
観察地：波照間島	発表その他：宮古野鳥の会（2000）
観察者：西里正善	個体数：2
発表その他：波照間中野鳥クラブ（1999）	観察日：1999年3月9日

C-065(続き)	G-128
観察地：与那国島	科名：ツル科 GRUIDAE
観察者：粒谷大地・坂口陽一郎（写真撮影）	種名：ナベヅル（1）
発表その他：谷川智一私信	学名： <i>Grus monacha</i>
D-095	英名：Hooded Crane
科名：カモ科 ANATIDAE	観察日：1997年12月14日
種名：カワアイサ（1）	観察地：伊良部島
学名： <i>Mergus merganser</i>	観察者：新垣邦夫
英名：Common Mergnser	発表その他：宮古野鳥の会（2000）
観察日：1997年12月28日	H-136
観察地：宮古島島尻干潟	科名：クイナ科 RALLIDAE
観察者：新垣邦雄	種名：シマクイナ（1）
発表その他：宮古野鳥の会（2000）	学名： <i>Coturnicops exquisitus</i>
E-114	英名：Yellow Rail
科名：タカ科 ACCIPITRIDAE	観察日：1998年2月13日
種名：クロハゲワシ（若1）（写真15・16）	観察地：西表島古見
学名： <i>Aegypius monachus</i>	観察者：川崎康弘
英名：Black Vulture	発表その他：福田篤徳私信.
観察日：2000年1月20日	I-204
観察地：石垣島バンナ岳	科名：シギ科 SCOLOPACIDAE
観察者：太田義憲（私信）	種名：コシギ（1）
発表その他：2000年2月保護・同年3月18日放鳥	学名： <i>Lymnocryptes minimus</i>
F-122	英名：Jack Snipe
科名：ハヤブサ科 FALCONIDAE	観察日：1996年10月3日
種名：ヒメチョウゲンボウ（雄1）	観察地：沖縄島金武町並里
学名： <i>Falco naumanni</i>	観察者：仲宗根勲・比嘉邦昭他
英名：Lesser Kestrel	発表その他：「Birder」125号. 文一総合出 版（1997）. p49.
観察日：1999年7月5日. 7月6日	
観察地：与那国島東崎、祖内	
観察者：五百沢日丸	
発表その他：Birder 157号30-32. 文一総合 出版（2000）.	

J-205

科名：セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE
種名：セイタカシギ
学名：*Himantopus himantopus*
英名：Blak-winged Stilt
観察日：1998年7月
観察地：沖縄島糸満（埋め立て地）
観察者：山城正邦他
発表その他：初繁殖

K-207

科名：セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE
種名：ソリハシセイタカシギ（2）
学名：*Recurvirostra avosetta*
英名：Avocet
観察日：1998年9月14日
観察地：石垣島蒲田原
観察者：熊澤正継（私信）
発表その他：「Birder」149号。文一総合
出版（1999）。p71.

観察個体数：1

観察日：1999年4月22日
観察地：沖縄島金武町
観察者：金田昌士・比嘉邦昭他
発表その他：琉球新報朝刊1999.4.25。

観察個体数：1

観察日：1996年3月29日
観察地：伊良部島長浜野鳥観察園
観察者：新垣邦雄
発表その他：琉球新報朝刊1996.4.2.

L-312

科名：モズ科 LANIDAE
種名：タカサゴモズ(1)
学名：*Lanius schch*
英名：Long-tailed Shrike
観察日：1998年1月1日
観察地：西表島住吉（牧場）
観察者：小川慎司
発表その他：小川慎司私信

個体数：1

観察日：1999年3月29日
観察地：石垣島平久保
観察者：北條京子
発表その他：北條京子私信

個体数：1

観察日：1999年3月9日
観察地：与那国島
観察者：粒谷大地・坂口陽一郎（写真撮影）
発表その他：谷川智一私信

M-354

科名：ウグイス科 SYLVIIDAE
種名：キクイタダキ
学名：*Regulus regulus*
英名：Goldcrest
観察日：1997年11月20日
観察地：宮古島狩俣
観察者：新垣邦雄
発表その他：宮古野鳥の会（2000）

M-354続き	3) 稀種の参考記録
個体数：1	A-068
観察日：1998年1月27日	科名：カモ科 ANATIDAE
観察地：沖縄島那覇市弁が岳	種名：リュウキュウガモ（1）
観察者：金城道男	学名： <i>Dendrocygna javanica</i>
発表その他：沖縄県公衆衛生協会編（1999）	英名：Indian Whistling Duck
個体数：3	観察日：1999年3月11日
観察日：1998年10月4日	観察地：西表島浦内川
観察地：栗国島	観察者：時田賢一・内田聖・森下恵美子
観察者：嵩原建二	東淳樹
発表その他：写真有り	発表その他：写真無し、琉球新報朝刊。
N-361	1999. 4.18
科名：ヒタキ科 TURDIDAE	B-096
種名：チャバラオオルリ（1雄）	科名：カモ科 ANATIDAE
学名： <i>Niltava vivid</i>	種名：コウライアイサ（1♂2♀）
英名：Vivid Niltava	学名： <i>Mergus squamatus</i>
観察日：1998年3月24日	英名：Chinese Mergnser
観察地：与那国島祖納	観察日：1996年12月19日
観察者：青木一夫・本若博次・福田篤徳他	観察地：西表島浦内川
発表その他：写真あり	観察者：庄山守
C-282	発表その他：「Birder」125号。文一総合 出版（1997）。p49.
科名：ヒバリ科 ALAUDIDAE	
種名：クビワコウテンシ（1）	
学名： <i>Melanocorypha bimaculata</i>	
英名：Bimaculated Lark	
観察日：1998年2月13日	
観察地：沖縄島金武町並里	
観察者：比嘉邦昭・大城亀信他	
発表その他：金田昌士私信	

謝　　辞

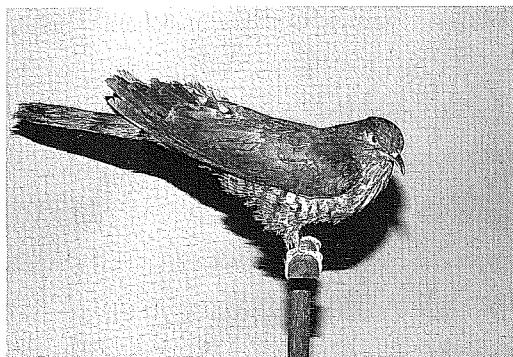
本報告をまとめにあたり、鳥類調査や鳥類情報の提供に協力していただいた沖縄野鳥研究会の山城正邦氏、金田昌士氏、仲宗根励氏、比嘉邦昭氏、大城亀信氏の各氏、宮古野鳥の会の久貝勝盛氏、砂川栄喜氏、新垣邦雄氏、日本野鳥の会八重山支部の崎山陽一郎氏とやんばる支部の久高将和氏、山階鳥類研究所の尾崎清明氏、仲里村教育委員会の松田史郎氏、県立博物館ボランティアの金城俊夫氏、渡久地政武氏、久米製糖の嘉手苅初子氏、西表島在住の蒲田愛美氏、与那国中学校の多和田眞修氏、沖縄環境保全研究所の新垣宏氏、茨城県つくば市の福田篤徳氏、鳥景会の伊礼新治氏、文一総合出版の亀谷辰朗氏、(株)野生生物保全研究所の大西敏一氏、京都在住の川勝敏雄氏、大阪在住の西村直人氏、松村伸夫氏、福岡在住の古屋篤史氏、埼玉在住の佐藤進氏、奈良在住の小山慎司氏、波照間中学校の西里正善氏、石垣島在住の大田義憲氏に対し厚く感謝申し上げる。また、中国語の翻訳に協力していただいた沖縄県中央保健所の新城安哲氏、地図や写真の活用に便宜を計っていた県立公文書館の当山昌直氏、英文のチェックをしていただいた沖縄県立博物館の前田真之氏、本報告のまとめに有益な助言をいただいた森岡照明氏、帯広畜産大学の藤巻裕蔵教授、国立科学博物館名誉研究員の森岡守之氏に深く感謝申しあげる。さらに、鳥類記録について発表の機会を与えていただいた博物館資料の寄託者である沖縄県教育庁文化課に対し深甚より感謝申し上げる。

<引用文献>

- Brazil M.A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm.446pp.
- Beaman, M. and Madge, S. 1998, The Handbook of Bird Identification for Europe and Western Palearctic. Princeton University Press, Princeton New Jersey. 868pp.
- Birder編集部 1999.日本のクイナたち.Birder151:14-15.文一総合出版.
- Feare, C and Craig, A. 1999. Starlings and Mynas. Princeton University Press, Princeton New Jersey. 285pp.
- Howard D. and Moore A. 1991. A coplate checklist of the Birds of the world, 2nd ed. Academic Press,London.
- 波照間中学野鳥クラブ 1999.波照間島で見られた野鳥. 74pp.
- 五百沢日丸他 2000. 日本の鳥 5 5 0 , 水辺の鳥. 文一総合出版. 351pp.
- 小林桂助 1983. 原色日本野鳥図鑑 (改訂増補). 保育社. 261pp.
- 顔重威他 1996. 中國野鳥図鑑. 翠鳥文化事業有限公司. 521pp.
- King, B. Fand Dickinson E.C. 1975. A field guide to the birds of South-East Asia. 480 pp. Houghton Mifflin. Boston.

- 黒田長禮 1980. 新版鳥類原色大図鑑 I . 講談社.
- Knystautas, A. 1993. Collins Guide Birds of Russia. Harper Collins Publishers、London.
256pp.
- 日本鳥学会 1974. 改訂日本鳥類目録. 学研
- 日本産鳥類目録編集委員会 1996. 日本産鳥類リスト. Jpn . J.Ornithol 46:59-91.
- Mayr, E.and J. C. Grennway,Jr. 1962. Check-list of the Birds of the World. vol. XV.
Museum of comparative Zoology ,Cambridge, Massachusetts.
- McWhirter D, Ikenaga H.,Iozawa H.,Shoyama M. and Takehara K. 1996. A Check-list of
the Birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical
records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum. (22):33-152.
- 宮古野鳥の会編 2000. 宮古群島の鳥類目録. 宮古野鳥 20周年記念誌.
- 森岡照明 1999. 新しい識別の試み, 与那国島のハイイロオウチュウ. Birder 154:62-
65.文一総合出版.
- 二階堂善二 1999.ハイイロオウチュウ. Birder145:26.文一総合出版.
- 王嘉雄他 1991. 台湾野鳥図鑑. 台湾野鳥資訊社. 274pp.
- 岡部海都 1998.マキバタヒバリ, 写真集日本の野鳥1997.文一総合出版.p90.
- 沖縄野鳥研究会 1993.改訂沖縄県の野鳥. 沖縄出版. 299pp.
- 沖縄県公衆衛生協会編 1999.那覇市域生物環境調査. 那覇市環境保全課.
- Ripley S.D. 1977. Rails of the World. M.F.Fehely,Tront,Ontario..
- 庄山守 1997. クロジョウビタキ. 1996年, 日本に舞い降りた鳥類たち. Birder125:44.
文一総合出版.
- Taylor B. and von Perlo B. 1998. Rails—A guide to the Rails,Crakes,Callinules and Coots
of the World. PICA PRESS,sussex.600pp.
- 嵩原建二 1990. 名護市鳥類目録. 名護やんばるの野鳥. 18-23.名護博物館.
- 嵩原建二 1994. 最近沖縄で目撃および保護された興味深い鳥類.
沖縄県立博物館紀要 20:141-146
- 友利哲夫 1977. 哺乳類・鳥類・昆虫類. 名護市動植物総合調査報告書. 名護市教育委員
会. 84-128.
- 八重山野鳥の会 1983. 10周年記念誌. 八重山野鳥の会. 74pp.
- 山階芳麿 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林. 1140pp.
- 山階鳥類研究所 1993. 環境庁委託調査,平成 5 年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥
類研究所標識研究室. p14.

<写真図版 1>



(1) オオジュウイチ
Cuculus sparverioides
(Large Hawk Cuckoo : 標本)



(2) クロシロカンムリカッコウ
Cucurus jacobinus
(Black-and-white Cockoo : 蒲田愛美氏
撮影 ; VTRテープからのプリント)



(3) ハイイロオウチュウ
Dicrurus leucophaeus leucogenis
(Ashy Drongo)



(4) タカサゴクロサギ
Dupertor flaviollis flaviollis
(Black Bittern : 新垣宏氏撮影)



(5) タンチョウ *Grus japonensis*
(Red-crowned Crane : 砂川栄喜氏撮影)

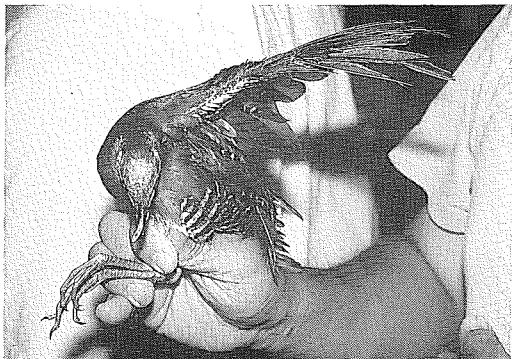


(6) コウライヒクイナ
Rallina paykullii 全身（背面）
(Band-bellied Crake)

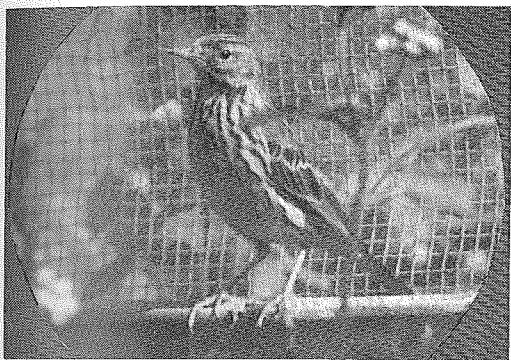
<写真図版 2 >



(7) コウライヒクイナ
Rallina paykullii 雨覆（背面）
(Band-bellied Crake)



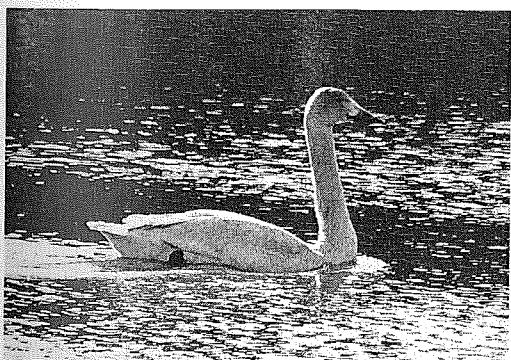
(8) コウライヒクイナ
Rallina paykullii (下腹部)
(Band-bellied Crake)



(9) マキバタヒバリ *Anthus pratensis*
(Meadow Pipit : 金田昌士氏撮影)
[琉球新報 1999年2月1日付記事改変]



(10) ハイイロペリカン
Pelecanus philippensis crispus
(Dalmatian Pelican : 多和田眞修氏撮影)

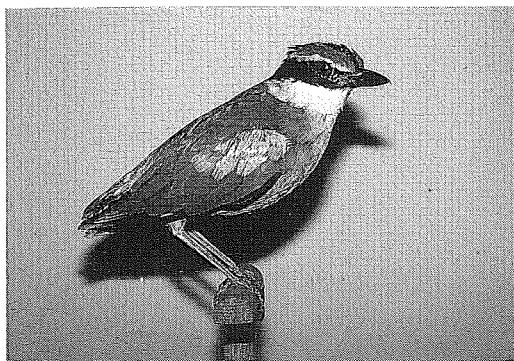


(11) コハクチョウ
Cygnus columbianus jankowskii
(Tundra Swan : 多和田眞修氏撮影)



(12) アオシギ
Gallinago solitaria japonica
(Solitary Snipe : 嘉手苅初子氏撮影)

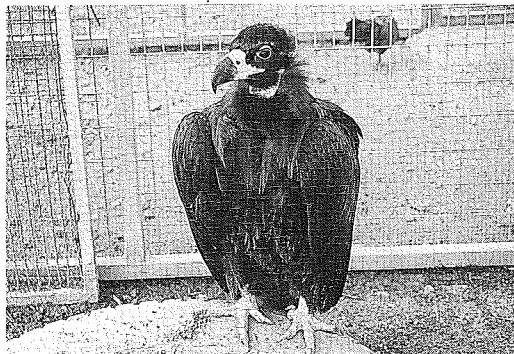
<写真図版 3 >



(13) ヤイロチョウ *Pitta nympha*
(Fairy Pitta : 標本)



(14) クロジョウビタキ
Phoenicurus ochruros rufiventris
(Black Redstart)



(15) クロハゲワシ
Aegypius monachus
(Black Vulture : 石垣市大本小で撮影)



(16) クロハゲワシ
Aegypius monachus
(Black Vulture : 大田義憲氏撮影)